

コーヒーは砂糖入りで (1988)

WITH SUGAR

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 中国

時間 92分

公開情報 劇場未公開・TV放映

【解説】

上海の高級アパートに弟と住むカメラマンの青年、剛仔はベランダから覗く街角に店を出す靴修理屋の娘をカメラで追いつけている。弟はマイクをアパートの一階部分に仕掛け、それが拾う都会の若者風俗の断面を友だちと楽しげに聞く（彼は中学生ぐらいだが驚くほどまかせていて、友人同士での会話はすっかり大人じみている）。剛仔が娘に声をかけると、彼女は、彼の存在に薄々気づいていたと言う。親の決めた結婚を逃れて都会に出てきた彼女、林露から、ラジオのリクエストも知らなければ、珈琲も飲んだことがないーと聞くと、剛仔はラジオ局に電話をし、メッセージを添えて曲を流してもらい、初めてのデートでは珈琲をご馳走した。“珈琲は苦いが、砂糖を入れると甘い”。それは青春と似ている。ホロ苦いが恋があれば甘やかだ。看板書きのアルバイトをする剛仔（公会堂で仕事をしていて、ミュージカルの練習風景がスタイリッシュに挿入される）は、友人たちからのカンパも足して林露には黙って彼女の母に送金した。彼は真剣だった。林露は彼を“遊び人”と誤解していたと謝る。二人の気持ちは、林露が危うく交通事故に巻き込まれ、間一髪で助かった時（スコセッシ作品を想わずようなオペラティックな演出が見られる）、最高潮に達し、剛仔の昔の溜まり場の廃墟で、ぎこちないが熱いキスを交わすのだった。そして、林露は親を説得しに戻り、剛仔は再会をひたすら待つが……。『心の香り』の孫周のデビュー作で、表面的にはきらびやかな映像に溺れているように見えて、普遍的な青春の塑型に成功している秀れた映画だ。

【クレジット】

監督 スン・チョウ Sun Zhou

出演 リ・フォンシュー

チェン・ルイ Chen Rui

ドウ・イン

ペン・リーチイ